

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2072501071
法人名	医療法人コスモス
事業所名	グループホーム コスモス松川
所在地	長野県下伊那郡松川町元大島 1629番地3 (電 話) 0265-36-7062
評価機関名	NPO法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府 3307番地5
訪問調査日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(20年 3月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算 13.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(3月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 70 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下伊那赤十字病院、中村医院、落合医院、宮澤歯科医院、米山歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「コスモス松川」は、ピンクの外壁に彩られた瀟洒な2階建ての目立つ建物である。また、町中にあり利用者の多くが町出身であるため、家族はもとより地域の方も気軽に立ち寄ることができ、それを気楽に受け入れたりすることのできる雰囲気がある。玄関を入るとエレベーターがあって1階・2階のユニットに分かれ、普段の生活ではそれぞれが献立・食事や入浴などの異なる隣の家族で、行き来もまた楽しみな一家でもある。利用者や職員との何気ない言葉にも、「ありがとう」という感謝の気持ちが十分表われていた。このように地域に密着し、家族のような温もりを感じられるのは、「その人らしさを保つように寄り添っていきます。住み慣れた地域に暮らし続けるための架け橋となります。」という理念の下、管理者をはじめ職員の分け隔てのない熱意と努力が育んできたと考えられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された課題については十分検討され、主なものは次のように改善されてきた。「ホームとしての理念がない」という点については、個人の尊厳の尊重・地域との触れ合いという観点の素晴らしい理念を掲げ、実践に向け努力している。また、「職員会が定期的に開かれていない」という点については、毎月1回職員会を開くように改善し、職員の意思疎通を図ってケアが充実できるように努力している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価取り組み、グループホームが今望まれている姿を知り、話し合ってきている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は6か月に1回と、回数が少ないが、地域の方との話し合いの中で、「手のひらの会」(地域のお年寄りの会)を紹介してもらい、参加して理解・交流を深めていくというような取り組みができたことは大きな成果であった。今後、運営推進会議の回数を増やし、会議の内容などを充実していくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは毎月利用者個人の近況報告の手紙と、「こすもす新聞」を送ったり、何かあったときにはその都度電話連絡したりして、連絡を欠かさないようにしている。また、家族会の折や面会の時には気軽に話し合うことができるように努め、要望や不満などを聞きだすようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	グループホームは町中にあり、利用者の孫が訪ねて来たり、地域の方が通りがかりに立ち寄りたりして、家族や地域の方も気軽に寄ることができる雰囲気がある。利用者は誰にでも明るく声をかけてくれるし、職員も家族の一員という気持ちで接しているからだと思われる。今後、さらに町や他のグループホームと連携し、認知症への偏見をなくして理解を深めていく取り組みが期待できると考える。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	平成19年度の外部評価の結果を踏まえ、開設以来の思いを基に、次の理念をつくりあげてきている。「私達は、入居者とその家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしさを保つことができるよう寄り添っていきます。」「私達は、地域社会とのつながりを大切に、認知症の方についての理解を深め、住み慣れた地域に暮らし続けるための架け橋となります。」		
		理念の共有と日々の取り組み	個人の尊厳の尊重・地域との触れ合いという理念を基に、職員会や日々の申し送りの中で、利用者の思い、家族の気持ちを大切にするように話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	自治会や地域のお年寄りの会「手のひらの会」に参加し、交流している。また、地域の行事(祭り、盆踊りなど)や保育園・小学校・中学校の行事にも参加し、交流を広げている。また、中学校・高校の福祉体験を受け入れている。そして、通りがかりに寄ってくれる地域の方々との触れ合いを大切にしている。		足の不自由な利用者も、「手のひらの会」との交流を深めることができるような支援を考えているので、実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	自己評価については職員全員で取り組み、グループホームのあり方を理解し、反省してきた。また、先年度の外部評価についても一つ一つ反省し、改善に努めてきた。例えば、毎月1回職員会を開き、ケアの充実を図るように改善している。		
		運営推進会議を活かした取り組み	6か月に1回運営推進会議を開き、状況の報告や課題について話し合っている。利用者代表に参加してもらったり、民生委員等の意見をうかがったりして、利用者本位のサービス向上に活かしている。		運営推進会議の回数を増やし、話し合う内容などを充実していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の生き生きした姿が写し出され、グループホームの理解に役立っているホーム便り「こすもす」を毎月配布し、町の担当者などに現状報告をしながら、課題や要望をきいてもらうようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便り「こすもす」を配布するとともに利用者一人ひとりの近況は手紙で伝えたり、面会時には金銭出納について報告したり、事故があった場合はその都度電話で報告したりして、家族との連絡を密にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会では打ち解けた話し合いができるように留意したり、面会時には気軽に話しかけたりして、家族の不満や苦情を聞きだしている。職員をよく知るために、名前・勤務時間を知らせてほしい等の要望に対して、すぐ対応してきている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った時には、管理者や慣れた職員と一緒に対応して、引継ぎがスムーズに行くように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修ではオムツの当て方やトロミ講習など、外部研修では口腔ケアや認知症研修など、参加する機会が多くある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯田下伊那地域のグループホーム連絡会に参加し、それぞれの悩みを話し合い、その結果を報告している。また、介護ケアについての勉強会の会場としても利用され、サービス向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所希望の方には、家庭訪問をはじめ見学や体験を通して、雰囲気に慣れるように配慮している。また、入居者の身体状況などに応じて、1階か2階かに決めるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴などを活かし、できる範囲で洗たく・干し物など仕事を分担している。また、畑作業・漬物作りや味付けなどを教えてもらったりして、一緒に仕事をしながら感謝の言葉をかけるようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の「私の生活史シート」などを使い、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。そして、本人の「こういうことをしたいよ」などの言葉を大切にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者一人ひとりのできるところを把握して、関係者と一緒に介護計画を作成している。そして、次のように本人の気持ちを基に目標作りをしている。「みんなの役に立ちたい 食事作り、自分のことはやり続けたい 下肢筋力の維持、みんなと仲良くしたい 穏やかな気持ちで過ごす」</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月介護計画を見直すようにし、見直し以前に新たな対応が必要である場合は、柔軟に見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、終末期の入院を回避し、最後まで看取るよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員にかかりつけ医の受診を勧め、車椅子使用の方には往診してもらったり、家族の同行ができないときには職員が同行したりして、臨機応変に支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針はあるが、マニュアルを作成していない。その都度、関係者と話し合い対応している。		重度化や終末期に向けた方針を基にマニュアルを作成し、利用者一人ひとりに応じた対応ができるよう、実現を期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを大切にし、トイレの言葉かけや入浴の見守りになどに気をつけている。また、利用者同士でのトラブルにも注意して、大事にならないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで過ごすことができるように支援している。例えば、畑作業をしたいときには天候があまりよくなくてもできるようにしたり、本人が今日はだめだと思えば、見学するだけにしたりして、思いや希望を聞くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の下ごしらえをしたり、配膳してもらって「ありがとう」と言ったりして、利用者一人ひとりが状況に応じて食事を楽しんでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせて、夏は1日おき、冬は2,3日に1回を基本に、午後から入浴できるようにしている。風呂は大きく、広いので楽しんで入っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味などを活かし、暮らしの励みになるよう支援している。かつて地域のまとめ役をしていた方には、グループホームでのリーダーとして活躍できるようにしたり、手芸の好きな方には匂い袋を作ってもらったりして、それぞれ生きがいを得るようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や畑作業など、本人の希望によって外出ができるように支援している。また、漬物作り・梅干作り・干柿作りやヨモギ採りなど季節に応じて外出し、楽しむようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけず、チャイムが鳴るようにしている。また、2階からエレベーターや階段利用する場合は、職員が一緒になって安全に気をつけるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間の避難訓練や救急対応の訓練などをし、さらに消防団の協力をえた訓練を予定している。		非常連絡網があるがマニュアルが用意されていないので、消防団参加の訓練を機会に、マニュアルを作成していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1階と2階とはそれぞれ異なる献立を作り、利用者一人ひとりに応じることができるようにしている。また、体重測定などを定期的に行い、栄養管理に留意している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階と2階とも入り口から入って行くと、中央に広い食堂・居間があり、畳コーナーやテラス(ベランダ)があって気持ちよく過ごすことができる。花や人形を飾ったり、作品などを掲示したりして季節感や生活感を採り入れた空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの使い慣れたたんすや鏡などの家具や、家族の写真や絵などが飾ってあって、親しみのある居室で居心地よく暮らすことができるようになっている。		